

## 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に 出場する本県選手を激励する決議

戦災から復興を遂げ「戦後のニッポン」を世界にアピールした東京五輪から半世紀が過ぎ、今まさに東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開幕されようとしています。平成 23 年 3 月、日本は東日本大震災に見舞われ、東北は甚大な被害等により深い失意に包まれました。

今大会は、震災から復興しつつある被災地の姿を全世界に示す大会です。

今年 3 月、被災地の福島からスタートした聖火リレーは全国を駆け巡っています。本県でも 6 月 6 日と 7 日の 2 日にわたり、県内各地で 185 名のランナーが希望の光をつなぎました。

全国の多くの人の思いをのせた絆の灯は、間もなく、聖火台に点火されようとしています。

現在、本県から 9 名の若者が代表に内定しています。

ボクシングの「岡澤セオン」選手、

アーチェリーの「中村美樹」選手、

水球の「三浦里佳子」選手と「鈴木透生」選手、

バレーボールの「高梨健太」選手、

パラリンピック水泳の「東海林大」選手と「齋藤元希」選手、

パラリンピックテコンドーの「太田渉子」選手、

そして、シッティングバレーボールの「竹井幸智恵」選手です。

大会が 1 年延期される難しい環境にありながら、不屈の精神で研鑽を重ね、代表の座を勝ち取った選手たちの努力に敬意を表し、これまで積み重ねてきた鍛錬の成果がいかに発揮され、最高のパフォーマンスとなるよう、心から願っています。

本県は、スポーツを通じた健康で豊かな県民生活と活力ある地域社会の実現を目指し、「山形県スポーツ推進条例」を制定しています。

9 名の本県選手が世界最高峰の舞台上躍動する姿は、未来を担う子どもたちに夢と希望を与えるとともに、コロナ禍にあって閉塞感を感じている県民に、明るい話題と感動をもたらすに違いありません。

よって、本県議会は、山形から世界に羽ばたき活躍する 9 名の選手を県民とともに力強く応援していきます。

**“ がんばれ！ニッポン！ がんばれ！ヤマガタ！ ”**

以上、決議する。

令和 3 年 7 月 2 日

山 形 県 議 会